

1 . 開催趣意書

緊急討論会「日本の橋をどうする」開催の提案

鋼橋技術研究会
会長 藤野陽三

先日の米国ミネソタ州トラス橋の落橋事故は、橋梁関係者のみならず一般の方々にも大きな衝撃でした。一転して米国から日本に目が向けられ、「日本の橋は大丈夫か」と人々が疑問を持ったところに、木曽川のトラス橋の斜材が腐食により破断していることが報道され、さらに、国土交通省の緊急点検で他のトラス橋にて同様の損傷が見つかりました。これらのトラブルはトラス橋に限った事ではなく、他の全橋梁においても起こりうる事が橋梁関係者間では議論されています。これまでも、多くの学識者から、社会資本としての橋梁の老朽化とその維持管理の重要性が警告と共に指摘されてきました。しかしながら、維持管理予算の不足という理由のもとに、橋梁の維持管理の体制が貧弱なままであることも事実です。

多くの方が国内橋梁の維持管理に興味を持ち、必要性を感じている今、官学民より一家言をお持ちの方をお招きしての講演会を開き、パネリストとフロアーが一体となった自由な討論の場を持つことで、今後の橋梁の維持管理の方向性についての提言をまとめられないかと考えました。

ぜひ、趣旨をご理解、ご賛同いただき、会に参加いただきますようお願い致します。